

美学・西洋美術史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
美学特論 I	美学特論 I	2	フォンガロ エンリコ	後期 水曜日 2 講時	
美学・西洋美術史特論 I	美術と魔術：ルネサンスを例にして	2	足達 薫	前期 月曜日 5 講時	美学・西洋美術史特論 I
美学・西洋美術史特論 II	ルネサンス美術における視覚的ユーモア	2	足達 薫	後期 月曜日 4 講時	美学・西洋美術史特論 I
芸術学特論 I	イタリア・ルネサンス庭園論	2	桑木野 幸司	前期集中 その他 連講	芸術学特論
芸術学特論 I	古代都市ポンペイの美術と社会	2	芳賀 京子	前期集中 その他 連講	芸術学特論
美学・西洋美術史研究演習 I	西洋美術研究：顔の表現に注目して	2	足達 薫	前期 金曜日 5 講時	美学・西洋美術史研究演習 I
美学・西洋美術史研究演習 II	西洋美術研究：顔の表現に注目して	2	足達 薫	後期 金曜日 5 講時	美学・西洋美術史研究演習 II
美学研究演習 I	美学研究演習 I	2	フォンガロ エンリコ	前期 木曜日 5 講時	西洋美術史研究演習 I

科目名：美学特論 I / Aesthetics(Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LM23211 科目ナンバリング：LIH-ART608J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美学特論 I

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics(Advanced Lecture I)

3. 授業の目的と概要：西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を読み、理解する。この文献に基づき、美学の専門的なテーマについて分析、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course aims to read and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse and reflect on topics related to aesthetics.

5. 学習の到達目標：西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対照しながら、美学の専門的なテーマについて分析、考察を行う。本年度は、ハイデガーの美学を中心に取り上げ、芸術作品とは何かについて特に論ずる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, and analysed by the students. This year, the course will deal with the question of what is a work of art, focusing on Heidegger's aesthetics.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. 導入 西洋美学史とは
2. 導入 現代美学について
3. ハイデガーと 20 世紀の哲学
4. ハイデガーの美学：『芸術作品の起源』(1)
5. ハイデガーの美学：『芸術作品の起源』(2)
6. 『芸術作品の起源』：芸術作品とは
7. 『芸術作品の起源』：物と作品 (1)
8. 『芸術作品の起源』：物と作品 (2)
9. 『芸術作品の起源』：物と作品 (3)
10. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (1)
11. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (2)
12. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (3)
13. 『芸術作品の起源』：芸術家とは
14. 『芸術作品の起源』：美的経験とは
15. 期末試験

8. 成績評価方法：

期末試験（口頭試験）(100%)。

9. 教科書および参考書：

マルティン・ハイデガー、『芸術作品の根源』（平凡社 2008 年）。

10. 授業時間外学習：Martin Heidegger, Der Ursprung des Kunstwerkes.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lect

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM11505 科目ナンバリング：LIH-ART609J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：美術と魔術：ルネサンスを例にして

2. Course Title (授業題目)：Art and Magic: the Case of Renaissance

3. 授業の目的と概要：現代の美術や写真において、現実と虚構、自然と技術のあいだの境界線を揺らがせるような作品をしばしば「魔術的」と呼ぶことがあります。しかし、美術と魔術の相関関係はすでに古代において発見されていたものであり、初期近代にかけて美術と魔術（そして科学）は、自然を操作する人為的技芸として本質的レベルで交錯しながら発展しました。この授業では、特にイタリアのルネサンスに注目して、美術と魔術の共鳴現象を具体的な作品や作家の事例の分析を通じて、現代では忘れられがちな美術の側面を解説します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In contemporary art and photography, we often refer to works of art that shake the boundaries between reality and fiction, nature and technology as "magical. However, the correlation between art and magic was already discovered in ancient times, and in the early modern period, art and magic (and science) developed as artificial arts that manipulate nature, intermingling at an essential level. In this class, we will focus on the Italian Renaissance in particular, and through the analysis of specific works and examples of artists, we will explain aspects of art that are often forgotten in the modern world.

5. 学習の到達目標：美術作品および作家を歴史的な脈と照らし合わせて分析する問の立て方および分析の手順を理解する。古代から初期近代のイタリアにおける美術の展開について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how to formulate questions and procedures for analyzing works of art and artists in relation to their historical contexts.

Understanding of the development of art in Italy from ancient times to the early modern period.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：プロローグ——生きている彫像？
- 2：美術と魔術の共鳴現象——古代からルネサンスへ
- 3：同時代の言説における美術と魔術
- 4：イメージ魔術と肖像画（1）
- 5：イメージ魔術と肖像画（2）
- 6：絵画と暗号（1）
- 7：絵画と暗号（2）
- 8：怪物の創造（1）
- 9：怪物の創造（2）
- 10：絵画と記憶術（1）
- 11：絵画と記憶術（2）
- 12：絵画と鏡魔術（1）
- 13：絵画と鏡魔術（2）
- 14：絵画と呪い
- 15：エピローグ——絵画と錬金術

（註：資料作成の過程で発見した内容に応じて所や内容を変更することがあります）

（授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします）

8. 成績評価方法：

コメントカードと最終レポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で指示します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください。

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lect

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM21407 科目ナンバリング：LIH-ART610J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：ルネサンス美術における視覚的ユーモア

2. Course Title (授業題目)：Visual Humor in Renaissance Art

3. 授業の目的と概要：美術という日本語に含まれた「美」という言葉は、しばしば、絵画や彫刻が美がかりでなく、もっと多様な感覚を生み出すという事実を忘れさせてしまいます。しかし、古代から現代まで、絵画や彫刻は笑いをも生み出してきました。この授業では、イタリアのルネサンス美術を対象として、視覚的ユーモアがいかにして生起していったかを具体的な作品を通じて理解します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The word "beauty" in the Japanese word "art" often makes us forget the fact that paintings and sculptures create not only beauty but also more diverse senses. However, from ancient times to the present, painting and sculpture have also produced laughter. In this class, we will look at Italian Renaissance art to understand how visual humor emerged through specific works.

5. 学習の到達目標：美術作品を歴史的な脈に位置づけて分析する視点と方法を理解する。
15～16 世紀イタリアの美術の主要な作品の流れを理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the perspectives and methods of analyzing works of art by placing them in historical contexts.

To understand the flow of major works of Italian art in the 15th and 16th centuries.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1：プロローグ——「笑う人を見ると笑いたくなる」？

2：ルネサンス文化における笑い

3：笑わせるためのいくつかの方法——アリストテレス『詩学』を起点として

4：エロス (1)

5：エロス (2)

6：パロディ (1)

7：パロディ (2)

8：逆転 (1)

9：逆転 (2)

10：比喩 (1)

11：比喩 (1)

12：皮肉 (1)

13：皮肉 (2)

14：誇張 (1)

15：誇張 (2)

(注：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)

(授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします)

8. 成績評価方法：

コメントカードと最終レポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で紹介します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください。

科目名：芸術学特論 I / Aesthetics and Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：桑木野 幸司

コード：LM98835 科目ナンバリング：LIH-ART611J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：芸術学特論】

1. 授業題目：イタリア・ルネサンス庭園論
2. Course Title (授業題目)：Italian Renaissance Garden: Theories and History
3. 授業の目的と概要：西欧の庭園の歴史を、古代から盛期ルネサンスまで概観する。写真や動画はもとより、平面図や文章記録などを駆使して、過去の庭園の形態ばかりでなく、そこに充填されていた意味を読みとく。庭園とは古来、文化を映し出す鏡としての機能を帯びてきた。庭園を読み解けば、その時代の自然観や哲学・美学思想を間接的に理解することができる。そのための基本的な方法論を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Learn to analyze the History of Western Garden and Designed Landscape from Antiquity to Renaissance.
5. 学習の到達目標：庭園様式の区分ができるようになること。形に込められた意味を読み解くことができるようになること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：What you'll learn
-Basic knowledge on the garden culture in Europe.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 イントロダクション
 - 第2回 古代世界の庭園
 - 第3回 中世庭園
 - 第4回 近代における風景の発見
 - 第5回 理想都市ピエンツァ
 - 第6回 初期メディチ家のヴィッラと庭園
 - 第7回 ドナーと・ブラマンテによる庭園芸術の革新
 - 第8回 ルネサンス期ローマの芸術文化とヴィッラ・マダーマ
 - 第9回 ヴィッラ・ジューリア、ヴィッラ・カステッロ
 - 第10回 「庭の掟」と庭園の一般公開
 - 第11回 植物園の誕生
 - 第12回 ヴィッラ・デステ、ヴィッラ・ランテ
 - 第13回 ボマルツォの怪物庭園
 - 第14回 プラトリーノ庭園
 - 第15回 まとめ
8. 成績評価方法：

出席およびレポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：

(参考書) 桑木野幸司『ルネサンス庭園の精神史』(白水社、2019年)
10. 授業時間外学習：授業で紹介した文献を自分で読んだり、庭園作品を自分で見学に行く努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：芸術学特論 I / Aesthetics and Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：芳賀 京子

コード：LM98836 科目ナンバリング：LIH-ART611J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：芸術学特論】

1. 授業題目：古代都市ポンペイの美術と社会

2. Course Title (授業題目) : Art and Society of Pompei

3. 授業の目的と概要：ナポリ近郊に位置するポンペイは、79 年のヴェスヴィオ火山の噴火によって埋没し、18 世紀になって再発見された古代都市である。ポンペイ周辺に良好に残る遺構や遺物を通して、古代ローマ世界の美術や社会についての知識を得ることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Pompei is an ancient Roman city which was buried under a thick layer of volcanic ash after the eruption of Mt. Vesuvius in 79 CE. The aim of this course is to obtain the fundamental knowledge about the art and the society of the ancient Roman world through well-conserved archaeological remains and artifacts excavated in and around Pompei.

5. 学習の到達目標：ポンペイという都市のさまざまな空間内において美術作品が占めていた位置を理解し、古代ローマ世界における社会構造と美術の関係を検討する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are to understand the context of art works in public/private spaces of Pompei and to examine the relationship between the art and the social structure in the ancient Roman world.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ポンペイの歴史と社会
3. 広場と政治
4. 商店と貨幣経済
5. 神域と宗教
6. 劇場
7. 円形闘技場
8. 体育施設
9. 水道と浴場
10. 住居①
11. 住居②
12. 解放奴隷と美術
13. 葬礼と墓地
14. ポンペイ遺跡の発見とその後
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポートによる

9. 教科書および参考書：

参考書

ジュゼッピーナ・チェルツリ・イレツリ他編『ポンペイの壁画』、全2巻、岩波書店、1991年

ロベール・エティエンヌ『ポンペイ・奇跡の町:甦る古代ローマ文明』(「知の再発見」双書)、創元社、1991年

ロジャー・リング『ポンペイの歴史と社会』(世界の考古学)、同成社、2007年

10. 授業時間外学習：上記の参考書や、授業中に紹介する参考文献を含めて知識を深め、最終レポートの準備を進めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅰ / Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Semi

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM15504 科目ナンバリング：LIH-ART612J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：西洋美術研究：顔の表現に注目して
2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art: Focusing on the Expression of the Face
3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。今年度は特に「顔」の表現（人とは限らない。動物にも自然にも人工物にも「顔」はありうる）に注目し、それぞれの研究テーマや関心に惹きつけた問いを立てながら、年間を通じて最低1つの具体的な先行研究の読解およびそれへの反論や修正を行い、発表の準備を進めます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This year, we will focus on the history of Western art from ancient times to the present day, formulating "questions" about the works and artists, conducting research and analysis, and making presentations based on previous research. This year, we will especially focus on the expression of "faces" (not necessarily people, but animals, nature, and artifacts). This year, we will pay particular attention to the expression of "faces" (not necessarily human faces, but faces can be found in animals, nature, and artifacts as well), and while formulating questions that attract our respective research themes and interests, we will read at least one specific previous study throughout the year, refute or revise it, and prepare for our presentations.
5. 学習の到達目標：西洋の美術作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を習得すること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn how to analyze Western art works, formulate a "question" (argument), and present their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：ガイダンス（1）発表の目的とこれからの予定
 - 2：ガイダンス（2）問いの立て方と先行研究の調査方法
 - 3：「問い」と先行研究についての報告
 - 4：発表と議論
 - 5：発表と議論
 - 6：発表と議論
 - 7：発表と議論
 - 8：発表と議論
 - 9：発表と議論
 - 10：発表と議論
 - 11：発表と議論
 - 12：発表と議論
 - 13：発表と議論
 - 14：発表と議論
 - 15：発表と議論

（注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることもあります）
（授業の受け方については決定次第、グループクラスルームでご連絡いたします）
8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

それぞれ叩き台とする先行研究については授業で検討し、決定していきます。
10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査および読解、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習は2学期も連続して履修してください。

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Semi

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM25504 科目ナンバリング：LIH-ART613J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：西洋美術研究：顔の表現に注目して
2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art: Focusing on the Expression of the Face
3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。今年度は特に「顔」の表現（人とは限らない。動物にも自然にも人工物にも「顔」はありうる）に注目し、それぞれの研究テーマや関心に惹きつけた問いを立てながら、年間を通じて最低1つの具体的な先行研究の読解およびそれへの反論や修正を行い、発表の準備を進めます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This year, we will focus on the history of Western art from ancient times to the present day, formulating "questions" about the works and artists, conducting research and analysis, and making presentations based on previous research. This year, we will especially focus on the expression of "faces" (not necessarily people, but animals, nature, and artifacts). This year, we will pay particular attention to the expression of "faces" (not necessarily human faces, but faces can be found in animals, nature, and artifacts as well), and while formulating questions that attract our respective research themes and interests, we will read at least one specific previous study throughout the year, refute or revise it, and prepare for our presentations.
5. 学習の到達目標：西洋の美術作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を習得すること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn how to analyze Western art works, formulate a "question" (argument), and present their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：発表と議論
 - 2：発表と議論
 - 3：発表と議論
 - 4：発表と議論
 - 5：発表と議論
 - 6：発表と議論
 - 7：発表と議論
 - 8：発表と議論
 - 9：発表と議論
 - 10：発表と議論
 - 11：発表と議論
 - 12：発表と議論
 - 13：発表と議論
 - 14：発表と議論
 - 15：発表と議論

(注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることもあります)
(授業の受け方については決定次第、グループクラスルームでご連絡いたします)
8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

それぞれ叩き台とする先行研究については授業で検討し、決定していきます。
10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査および読解、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習は1学期から連続して履修してください。

科目名：美学研究演習Ⅰ／Aesthetics(Advanced SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 木曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LM14502 科目ナンバリング：LIH-ART614J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：西洋美術史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：美学研究演習Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics(Advanced SeminarⅠ)

3. 授業の目的と概要：西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を精読し、理解する。美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論をする能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course aims to read carefully and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse, give presentations and discuss about topics related to aesthetics.

5. 学習の到達目標：西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対象しながら、美学の専門的なテーマについて分析、議論を行う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, analysed and discussed by the students.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ドゥルーズとは誰か
2. ドゥルーズとシネマ
3. 『シネマ1』：運動に関するテーゼ
4. 『シネマ1』：フレームとショット
5. 『シネマ1』：モンタージュ
6. 『シネマ1』：モンタージュ
7. 『シネマ1』：イメージとは
8. 『シネマ1』：知覚イメージ
9. 『シネマ1』：感情イメージ
10. 『シネマ1』：欲動イメージ
11. 『シネマ1』：行動イメージ
12. 『シネマ2』：時間イメージ
13. 『シネマ2』：時間イメージ
14. 『シネマ2』：時間イメージ
15. 試験

8. 成績評価方法：

口頭試験(80%)およびレポート(20%)。

9. 教科書および参考書：

ジル・ドゥルーズ、『シネマ1、運動イメージ』、『シネマ2、時間イメージ』。

10. 授業時間外学習：Gilles Deleuze, Cinema 1, L' image-mouvement; Cinema 2, L' image-temps.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

毎回の授業後に、授業でとりあげた映画を見ることが必須である。映画の上映については授業時に詳しく説明する。